

◆「311 受入全国協議会（通称：うけいれ全国）」とは？

全国で原発事故被災地からの保養キャンプや避難移住など、さまざまなかたちで被災者を受け入れる活動をしている団体のネットワーク。

2011 年秋から福島市・郡山市などで小さな相談活動を開始、12 年から 20 団体前後を集める相談会に発展。浜通りや、宮城県白石市、栃木県那須塩原市でも開催。

- ・受け入れ側の団体が、自ら被災地のなかに足を運ぶことの必要性
- ・全国各地の団体どうしが、横に繋がりいっしょに活動する必要性

2012 年秋に協議会発足。

その後、保養・移住・相談会の各グループのほか、学校や行政と連携した移動教室・国内留学グループ、被災地から送り出す現地グループ、保養活動に助成金を出すファンドグループの活動も開始。現在、6つのワーキンググループで活動を展開。

◆原発事故発生から4年目の課題と取り組み

【課題】

- ・安全キャンペーンと風化による被災者のいっそうの孤立
- ・他方、いまだに「保養」という言葉さえ浸透していない
- ・保養や母子疎開をしてきた家庭の経済的負担の積み重ね
- ・受け入れ団体の側にも、人力や財力の枯渇が見られる

【取り組み】

- ・移動教室や国内留学といった、多様な保養のカタチの模索
- ・被災者のイニシアチブを強化、持続可能で自立的な保養企画
- ・ファンド事業による、保養の参加者と実施者の経済的負担軽減
- ・「究極の保養」としての移住定住のサポート

→ただし、民間頼みの体力的財力的限界も